

平成26年度病害虫発生予報第6号(9月予報)

<今月のコラム> ・夏植の植付時におけるイネヨウの防除対策について
・キク立ち枯れ症病害の防除対策について

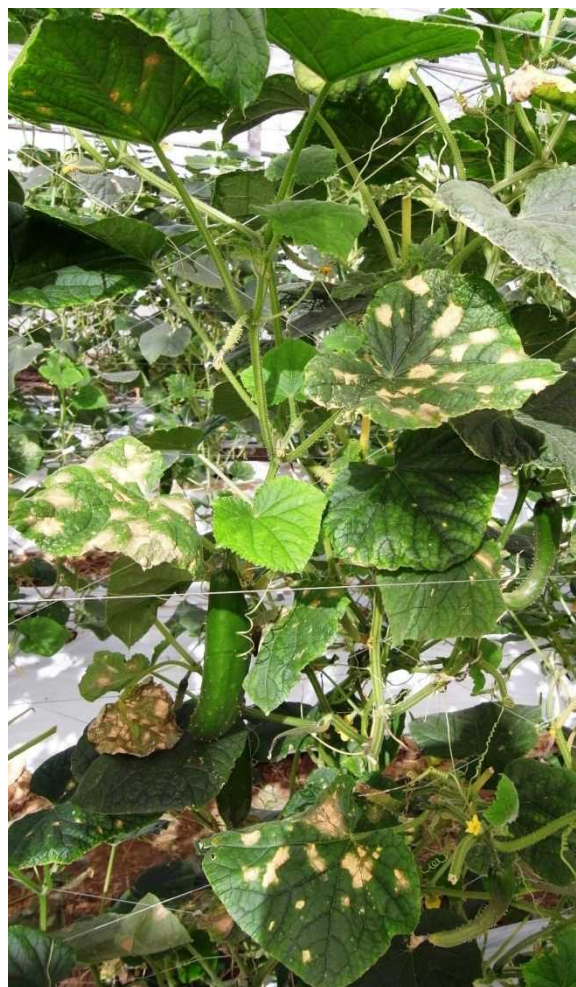
<お知らせ>

・気象庁が定める平年値
イネヨウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しています。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/documents/h25-ineyo.html>

今月のトピックス

褐斑病(きゅうり)

学名 : *Corynespora cassiicola*



症状1:不整形に病斑が拡大



輪紋状に拡大した病斑



症状2:小型病斑が多数形成



小型の病斑



こん棒状の分生子

生態と被害

本病は糸状菌類の病害で、主に下～中位葉に発生する。本県では周年発生するが、高温多湿時に発生が多い。症状は、葉に淡褐色、円形の病斑が形成され、不整形形で輪紋状に拡大する(症状1)、または小型の病斑が多数形成される(症状2)。本菌は病斑上にこん棒状の分生子を形成し、作業時に飛散する。また、被害残さとともに土壌中でも生存するため、次作での発生源となる。密植や窒素過多は本病の発生を助長するので肥培管理を適正に行ない、施設栽培では高温多湿にならないよう十分換気する。病葉を確認したら早めに除去し、薬剤散布する。薬剤耐性が発達しやすいため、同系統薬剤の連用を避ける。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/index.html>

I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年8月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	27.6	30.4	25.5	260.5	188.9
宮古群島(宮古島)	27.4	30.0	25.3	230.0	184.6
八重山群島(石垣島)	27.9	30.7	25.8	257.7	193.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報概要

作 物	病 害 虫 名	発 生 量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
水稻(二期作)	スクミリンゴガイ	—	—	多
シークワサー	かいよう病	多	—	—
タンカン	かいよう病	多	—	—
温州みかん	かいよう病	やや多	—	—
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	並	やや多	—
へちま	ヒメクロウリハムシ	並	—	—
	ワタヘリクロノメイガ	並	—	—
	ハモグリバエ類	並	—	—
きゅうり	褐斑病	多	—	—
	ミナミキイロアザミウマ	並	—	—
にがうり	斑点病	多	—	—
	ワタヘリクロノメイガ	並	—	—
オクラ	フタテンミドリヒメヨコバイ	—	—	並

Ⅲ その他注意すべき病害虫等

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病害虫名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャシンクイハマキ		○	
	イネヨトウ	○	○	○
	バッタ・イナゴ類		○	○
	野そ		○	
マンゴー	チャノキイロアザミウマ			○

☆ 予報の見方 ☆

「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

◇ 一般的な病害虫防除対策について ◇

- a 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- b 薬剤抵抗性害虫や薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布に努める。
- c 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- d 防除効果を高めるため、むらのないよう丁寧に散布する。
- e 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- f 多湿にならないよう、圃場の排水をよくする。
- g 病原菌は雨水や風で伝搬されるので、ビニールの破れ等を補修する。
- h 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

◆予報の見方◆

1. 予報の構成

- 1) 「注意すべき病害虫」：向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫
- 2) 「その他注意すべき病害虫等」：「注意すべき病害虫」ほどではないが、例年より発生が多い等注意を要する病害虫。本文中では、「○(白丸)」で表記されます。
- 3) 発生程度：向こう1か月の間に予想される発生量を示します。
- 4) 「コラム」：発生量に関係なく、季節的に防除を要する病害虫。
- 5) 予報の根拠：予報を推定した根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ等への誘殺状況等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。
- 6) グラフ：予報根拠となる病害虫の発生推移等について示します。今年値を実線●(黒丸)で、平年値を…(破線)で示します。平年値からの工(縦線)は平年並の範囲を表します。
- 7) <防除上注意すべき事項>：防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

2. 用語の基準とその使用法

1) 「発生量」の見方

平年値：過去5年～10年間の発生量の平均値

例年値：過去3年～4年間の発生量の平均値

発生量：原則として平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は高くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

発生量	内容
平年並	平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや多・やや少	平年並の外側20%の度数の入る幅
多・少	上記3者の外側10%の度数の入る幅

平成26年度沖縄群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年8月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	27.6	30.4	25.5	260.5	188.9

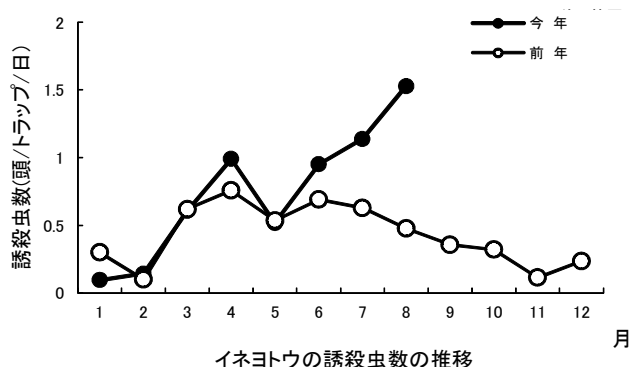
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ イネヨトウの防除対策

8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.5頭(前年0.5頭)であった。



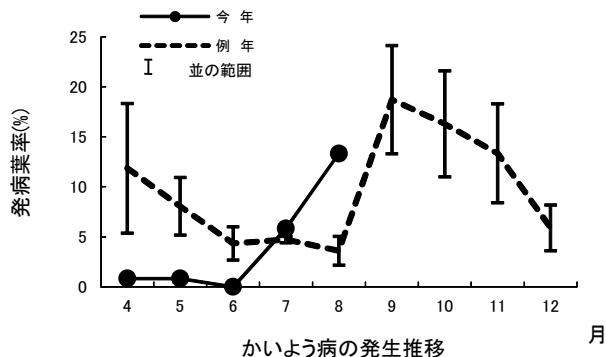
<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 本号コラム「夏植の植付け時におけるイネヨトウの防除対策について」(p16)参照。

2 シークワーサー

- (1) かいよう病
 発生程度 : 多
 予報の根拠

8月下旬の調査の結果、発病葉率は13.3%（前年4.2%、平年3.6%）と平年より高かった。



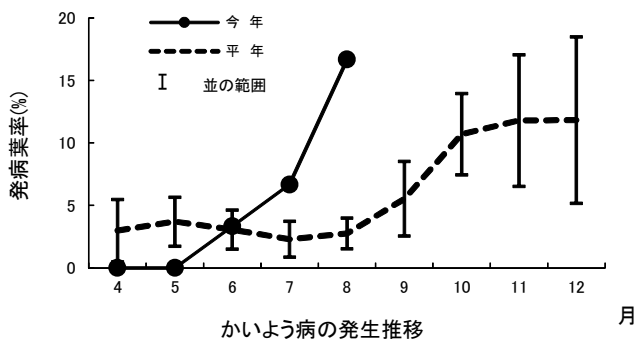
<防除上注意すべき事項>

- a 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- b 台風通過前に薬剤防除を行うと効果的である。

3 タンカン

- (1) かいよう病
 発生程度 : 多
 予報の根拠

8月下旬の調査の結果、発病葉率は16.7%（前年1.1%、平年2.8%）と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- b 台風通過前に薬剤防除を行うと効果的である。

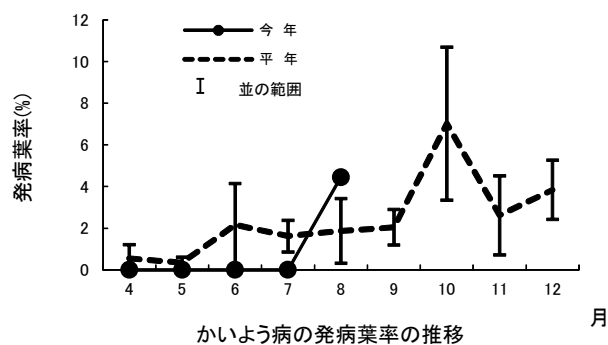
4 温州みかん

(1) かいよう病

発生程度 : やや多

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、発病葉率は4.4%（前年8.9%、平年1.9%）と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- 台風通過前に薬剤防除を行うと効果的である。

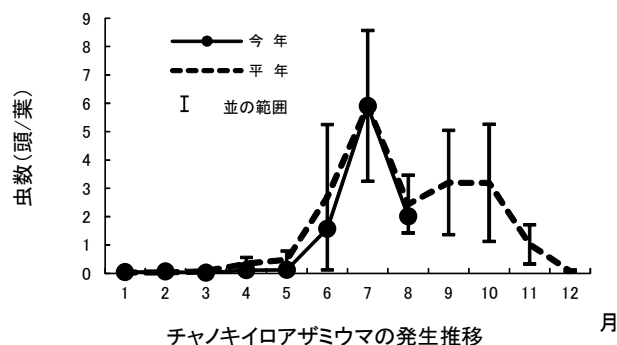
5 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : 並

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は2.0頭（前年5.4頭、平年3.2頭）と平年並であった。



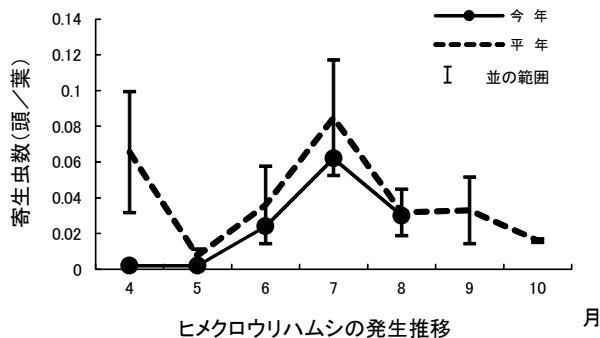
<防除上注意すべき事項>

- 収穫期に発生の多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- 剪定後の新梢の発生が早い施設では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

6 へちま

(1) ヒメクロウリハムシ 発生程度：並 予報の根拠

8月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年0.01頭未満、平年0.1頭未満)と平年並であった。

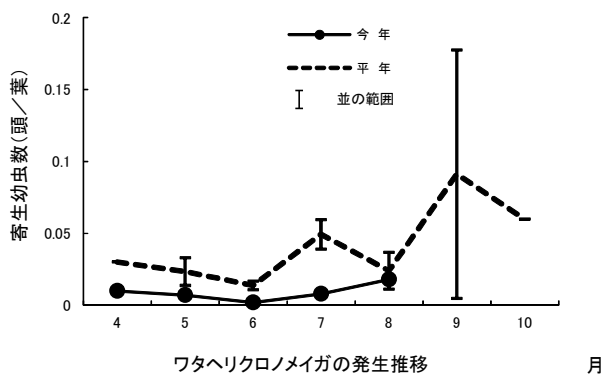


<防除上注意すべき事項>

- シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- 圃場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- 産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- 動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。

(2) ワタヘリクロノメイガ 発生程度：並 予報の根拠

8月中旬の調査の結果、葉当たり幼虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年並であった。



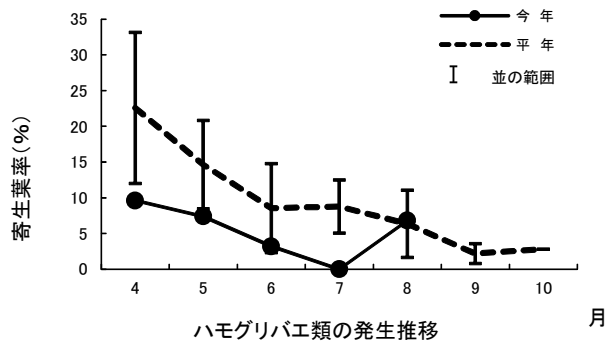
<防除上注意すべき事項>

- 老熟幼虫は巻葉内にいて薬効が低いので、若齢期の防除が望ましい。
- 殺虫剤は、若齢虫が生息する葉裏に掛け残しがないよう丁寧に散布する。

(3) ハモグリバエ類

発生程度：並
予報の根拠

8月中旬の調査の結果、寄生葉率は6.8%(前年0.4%、平年6.4%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

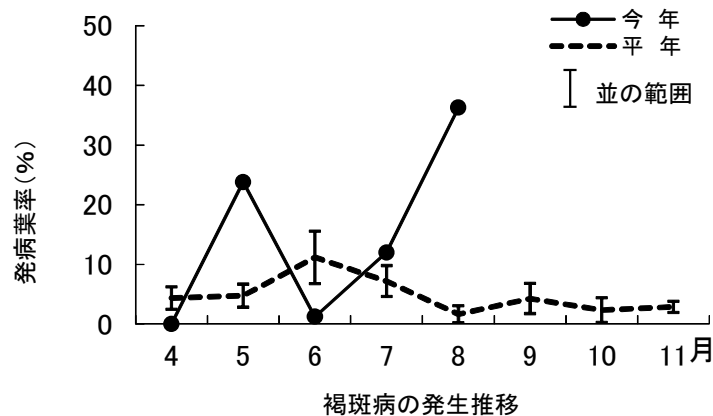
- a 圃場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- b 幼虫期間が比較的短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- c 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

7 きゅうり(施設)

(1) 褐斑病

発生程度：多
予報の根拠

8月下旬の調査結果、発病葉率は36.0%(前年0.4%、平年1.6%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

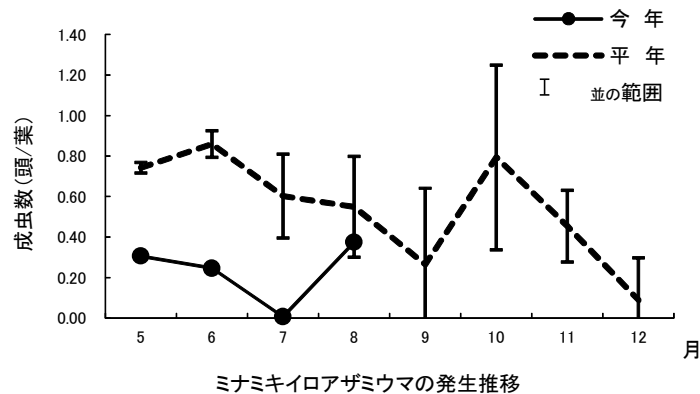
- a 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- b 下葉の老葉を早めに除去し、圃場外に持ち出し処分する。
- c 薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

(2) ミナミキイロアザミウマ

発生程度：並

予報の根拠

8月下旬の調査結果、葉当たり成虫数は0.23頭(前年1.22頭、平年0.55頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 本種は灰白色斑紋病や黄化えそ病の媒介虫である。
- b 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- d 摘芯や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密封し、施設外に持ち出し処分する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

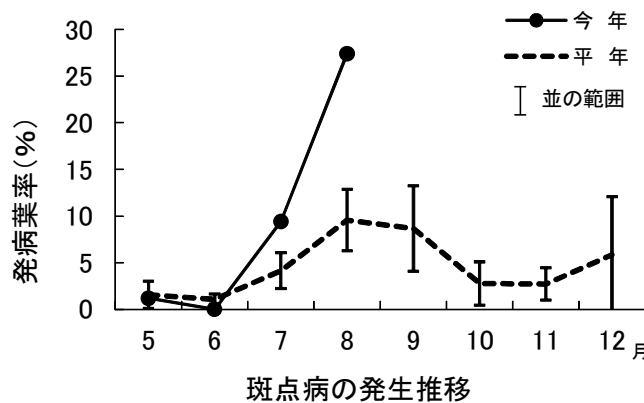
8 にかうり(施設)

(1) 斑点病

発生程度：多

予報の根拠

8月下旬の調査結果、発病葉率は27.4%(前年6.8%、平年9.6%)と平年より高かった。

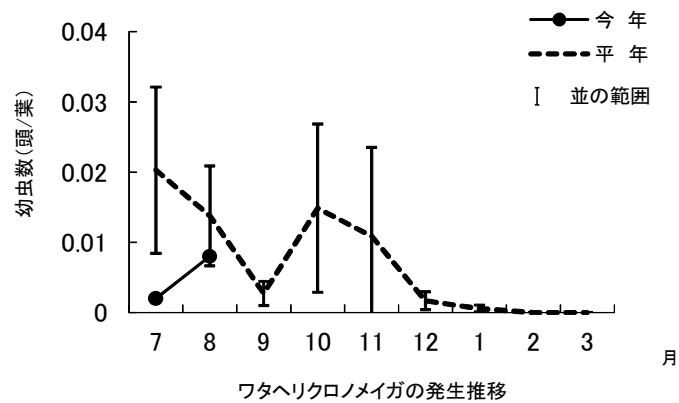


<防除上注意すべき事項>

- a 老葉や病葉は発生源になるので除去し、圃場外に持ち出して処分する。
- b 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- c 中～下位葉をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。

(2) ワタヘリクロノメイガ
発生程度：並
予報の根拠

8月下旬の調査結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 幼虫は葉だけでなく果実やつるを食害するため被害が大きくなる。
- 老熟幼虫は巻葉や果実内に隠れて防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 殺虫剤は、若齢幼虫が生育する葉裏に掛け残しが無いよう丁寧に散布する。
- 施設出入口は防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。

平成26年度宮古群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年8月21日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	27.4	30.0	25.3	230.0	184.6

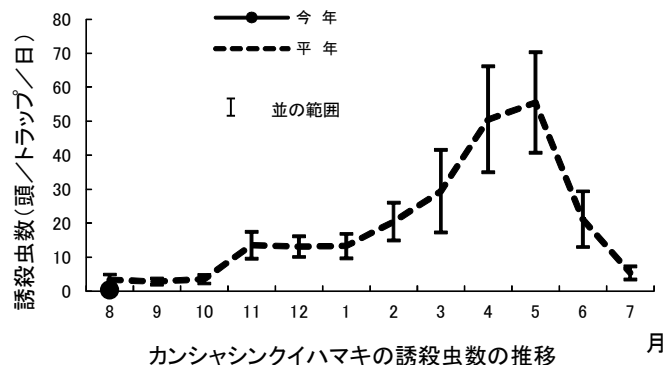
(沖縄气象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ カンシャシクイハマキの防除対策

8月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.5頭(前年1.4頭、平年3.1頭)と平年よりやや少なかった。

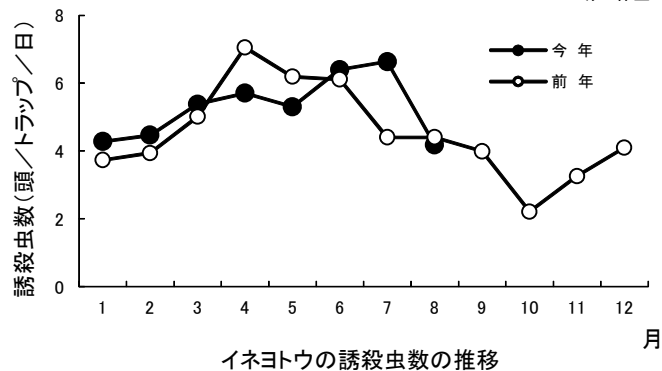


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.2頭(前年4.4頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 本号コラム「夏植の植付時におけるイネヨトウの防除対策について」(p16)参照。

○ バッタ・イナゴ類の防除対策

- a 一部圃場および隣接草地で発生し、中肋だけが残る食害もみられた。
- b 発生源となる圃場および周辺の除草を徹底する。
- c 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- d 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成26年5月30日付)参照。

○ 野その防除対策

- a 8月中旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0.6%、平年0.2%)と平年よりやや少なかった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

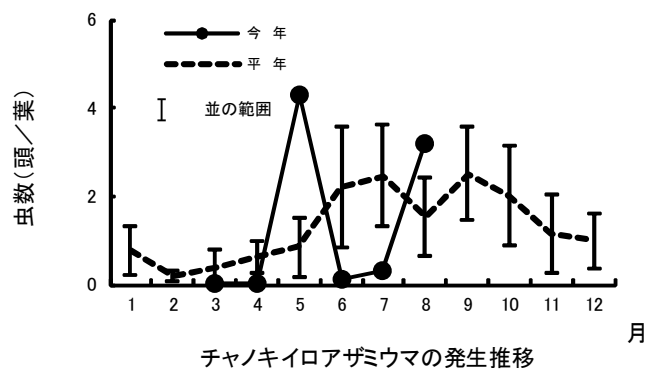
2 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : やや多

予報の根拠

8月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は3.2頭(前年3.7頭、平年1.5頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 収穫期に発生が多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- b 剪定後の新梢の発生が早い施設では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成26年度八重山群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平年並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年8月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	27.9	30.7	25.8	257.7	193.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報および防除上の注意事項

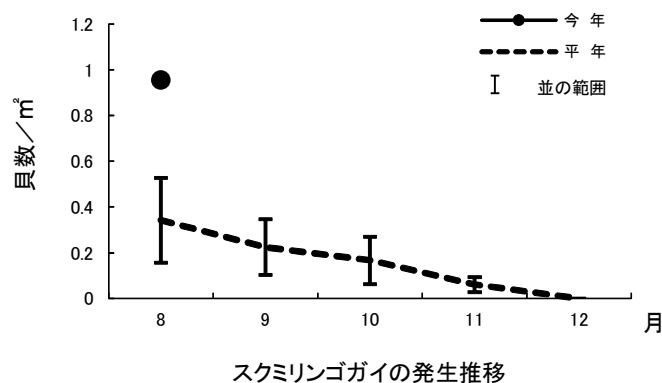
1 水稲(二期作)

(1) スクミリンゴガイ

発生程度 : 多

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、1㎡当たりの貝数は1.0頭(前年1.0頭、平年0.3頭)と平年より多かった。また、入水後の本田や用水路に卵塊がみられた。



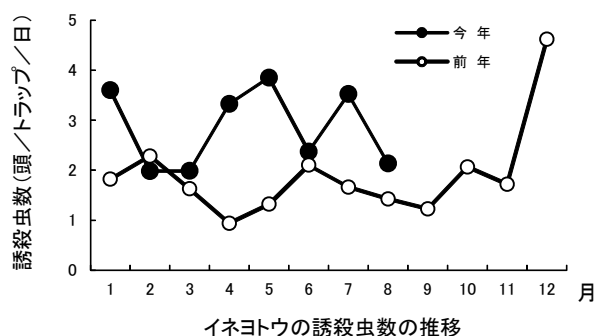
<防除上注意すべき事項>

- a 例年、本種の被害は二期作に多く見られる。
- b 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
- c 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用水路からの侵入を防ぐ。
- d 本田での被害が集中する移植後2～3週間頃から浅水管理(1cm以下)に努め本種の活動を抑えるとともに、薬剤を施用する。
- e 畦畔および用水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
- f 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。
- g 平成26年度病害虫発生予報第4号(平成26年6月27日)コラム参照。

2 さとうきび

○ イネヨトウの防除対策

8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.1頭(前年1.4頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 本号コラム「夏植の植付時におけるイネヨトウの防除対策について」(p16)参照。

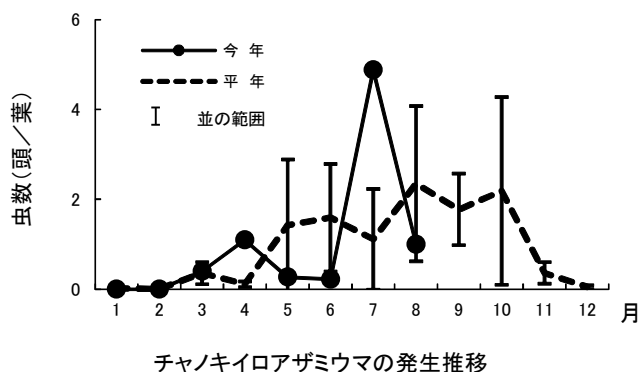
○ バッタ・イナゴ類の防除対策

- 一部地域でイナゴ類の多発圃場があった。
- 発生源となる圃場および周辺の除草を徹底する。
- 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成26年5月30日付)参照。

3 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマの防除対策

8月下旬の調査の結果、葉当たり成幼虫数は1.0頭(前年10.2頭、平年2.3頭)と平年並であったが、発生は一部施設に限られた。



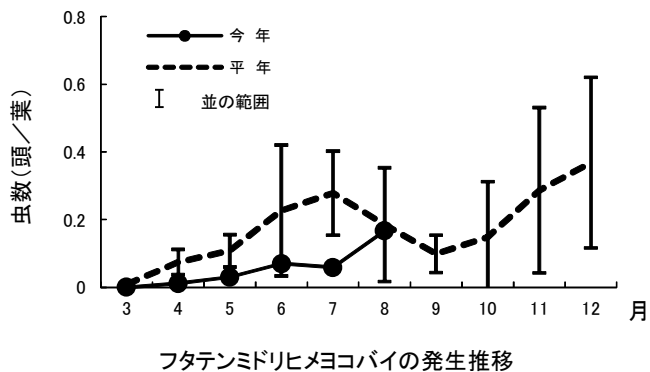
<防除上注意すべき事項>

- 収穫期に発生が多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- 剪定後の新梢の発生が早い施設では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

4 オクラ

- (1) フタテンミドリヒメヨコバイ
発生程度：並
予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.2頭(前年0.1頭未満、平年0.2頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 多発すると吸汁加害により葉の萎縮や黄化が進み生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる圃場周辺の雑草を除去する。

コラム①：夏植の植付時におけるイネヨトウの防除対策について

県内全域のさとうきび圃場において、イネヨトウによる被害がみられます。生育初期の被害軽減のため、植付時における粒剤施用と植付後の除草剤等による防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 沖縄では年5～7世代を重ね、幼虫は周年を通して発生する（図1）。
- (2) 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。幼虫は葉鞘の外側から孔を開けて食入し、生長点を加害して芯枯れを起こす（図2）。
- (3) 初期被害は圃場周辺部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
- (4) 被害圃場及びイネ科雑草が発生源となり、新植圃場に侵入する。



図1 イネヨトウ幼虫



図2 芯枯を起こしたさとうきび

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 植付時
 - a 全茎苗は剥葉し、メイチュウ類の被害芽子のある苗は使用しない。
 - b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため、除去する。
 - c 植付時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選択し、植溝施用する（図3）。
- (2) 生育初期
 - a 周辺圃場における本種の発生有無を確認する。
 - b 芯枯茎が発生した場合は、葉鞘に薬剤が入るよう意識し薬剤散布を行う。
 - c 培土時には土壤害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選択し施用する。
 - d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。



図3 粒剤は散布後、土壤混和する

コラム②：キク立ち枯れ性病害の防除対策について

冬春期の出荷に向けたキクの育苗期から定植初期には、立ち枯れ性病害による被害がみられます。例年、県内全域で発生がみられるので、下記の防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 育苗床では茎葉が褐変し、坪枯れ状に拡大する（図1）。
- (2) 未熟堆肥の使用や窒素肥料の多用により発病が助長する。
- (3) 前年の発病地には、罹病植物とともに土壤中に菌が生息している可能性がある。
- (4) 定植初期で最も発生が多く、病気が進行すると、下葉から枯れ上がり、地際部の褐変腐敗や株の萎ちようがみられる（図2、3、4）。



図1 育苗床における坪枯れの発生



図2 定植初期におけるキクの立ち枯れ被害



図3 地際部の褐変症状



図4 株の萎ちよう症状

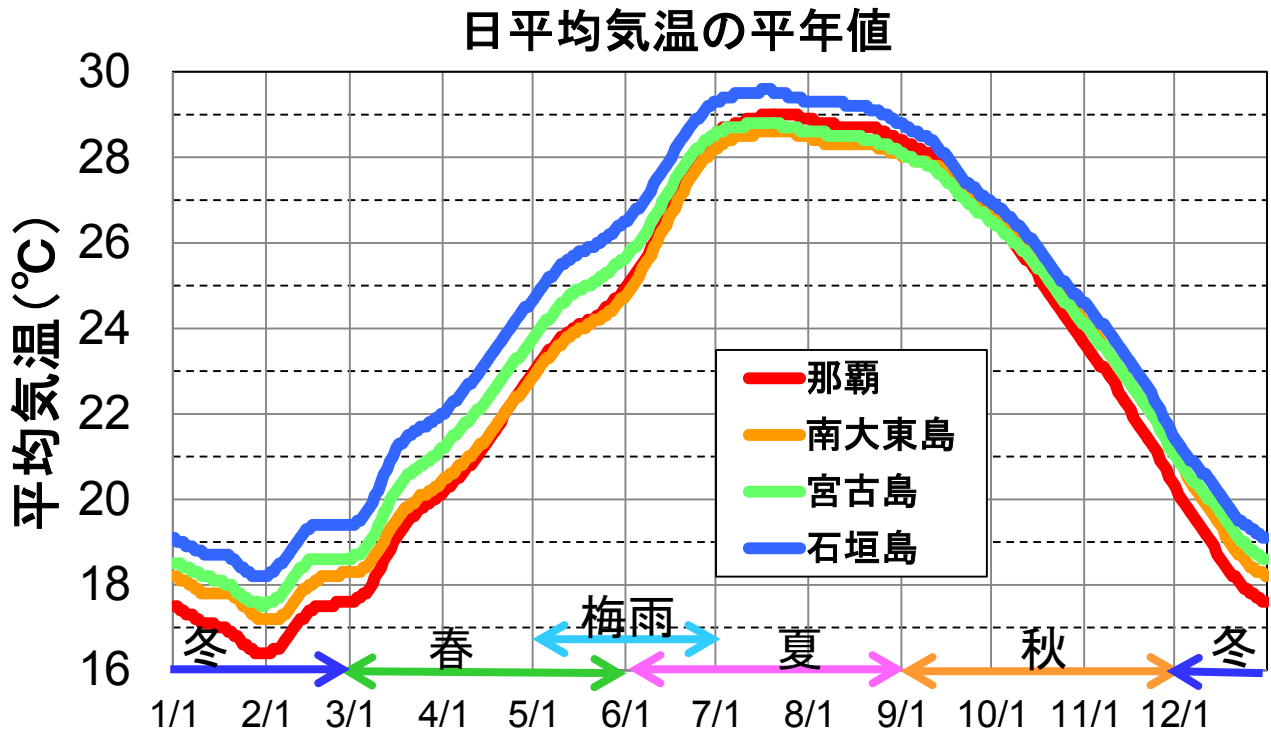
2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 育苗期
 - a 立ち枯れの発生している親株圃場からは採植しない。
 - b 育苗床やプラグトレイ等の育苗資材は再利用する際は使用前に消毒する。
 - c 発病株は早めに抜き取りビニール袋に入れるなどして処分する。
- (2) 定植期
 - a 病害と疑われる苗は圃場に持ち込まない。
 - b 前年、発生がみられた圃場では直挿ししない。
 - c 過湿にならないようかん水を調整する。
 - d 発病株は早めに抜き取り圃場外へ持ち出し処分する。
 - e 病原菌の種類によって有効薬剤が異なるので、菌の特定を速やかに行う。
 - f 圃場内を除草し、菌の生存しにくい環境を作る。
 - g 植付前に土壌消毒を行う。残さがあると効果がでにくいので、予め除去する。

コラム③：気象庁が定める平年値

気象庁では、現在は1981～2010年(昭和56年～平成22年)の30年間の観測値に基づいた平均の値を平年値として使用しており、10年ごとに更新しています。下の図は、4地点(那覇、南大東島、宮古島、石垣島)の平均気温の平年値の推移を示したグラフです。各地点の気温の季節の変化や地点ごとの差がわかります。

平年値は、その時々々の気象(気温、降水量、日照時間等)や天候(冷夏、暖冬、少雨、多雨等)を評価する基準として利用されると共に、その地点の気候を表す値として用いられています。



平年値は、気象庁の観測地点(気象官署とアメダス地点)における、年、3か月、月、旬、日別の値が用意されています。主要な平年値は、気象庁ホームページの「過去の気象データ・ダウンロードページ」で取得できます。なお、気象庁刊行物「平年値(統計期間 1981～2010年)」(CD-ROM)にはすべてのデータが収録されています。気象台でも閲覧もできます。

過去の気象データ・ダウンロードページ

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>

那覇の平年値(過去の気象データ検索ページ)

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_sfc_ym.php?prec_no=91&block_no=47936&year=&month=&day=&view=



沖縄気象台提供

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157